

Innovation

海外展開を加速するALA関連事業

ALAは学会などでも注目を集めています

SBIファーマは、アミノ酸の一種である5-アミノレブリン酸(ALA)を活用した医薬品、健康食品などの開発に取り組んでいます。

現在、国内外の90に及ぶ大学や病院などにおいてALAに関するさまざまな研究が行われており、今後もこのネットワークは拡大していく予定です。

例えば、東京大学や英国立医学研究所(National Institute for Medical Research)などではマラリアに関する研究、京都府立大学やハワイ大学などでは糖尿病を含む代謝改善薬の研究、東京工業大学などではがん診断の研究などが行われています。

ALAは学会などでも注目を集めており、2011年5月にはポルフィリン並びにALAを扱う研究者が広く集う「ポルフィリン-ALA学会」(会長・大倉一郎東京工業大学名誉教授)が発足、

すでに3回のシンポジウムが開催されています。

また、2012年11月にスペインの首都マドリッドで開催された「第7回糖尿病とその合併症予防に関する世界会議」では、ALAに関するセッションが開催されました。

中東ではバーレーンを拠点として、創薬・臨床研究・製造・輸出などALA関連事業が今後、次々に展開されていく予定です。なぜ中東かというと、バーレーンをはじめ中東諸国は糖尿病患者の比率が日本の3~4倍と非常に高いという事情があるからです。

このため、糖尿病治療は喫緊の課題となっており、ALAを利用した糖尿病の臨床研究に関しては、バーレーン国防軍病院糖尿病診療科、湾岸諸国立大学(Arabian Gulf University)付属病院などの医療・研究機関と提携、複数の臨床研究が始まる予定です。

また、ALAを利用した大腸がんの光線力学診断の臨床研究に関しては、バーレーン医科大学やKING HAMAD UNIVERSITY HOSPITALと提携しています。

医薬品分野では各国でプロジェクトが進行中です

医薬品分野では中東以外でも世界各国でプロジェクトが進行中です。

このうち英国と米国ではがん化学療法に伴う貧血の治療薬開発をCRO(Contract Research Organization)に委託して進めています。

英国におけるフェーズI臨床試験(安全性試験)は既に投与試験が完了し、レポートの作成が進められています。2014

年3月期第3四半期中に開始予定のフェーズII臨床試験においては、貧血治療薬を含む複数の分野の医薬品として治験申請を検討しています。また米国においても、英国でフェーズII臨床試験を開始次第、フェーズIIから臨床試験を開始する予定です。

さらにALAを用いた健康食品に関しては、販路拡大に向け各国当局からの許可取得などが順調に進んでいます。

バーレーンとUAE(アラブ首長国連邦)ではそれぞれ現地当局より健康食品「NatuALA ONE」の販売許可を取得しました。バーレーンでは現地流通大手DawaniとALA製品販売の

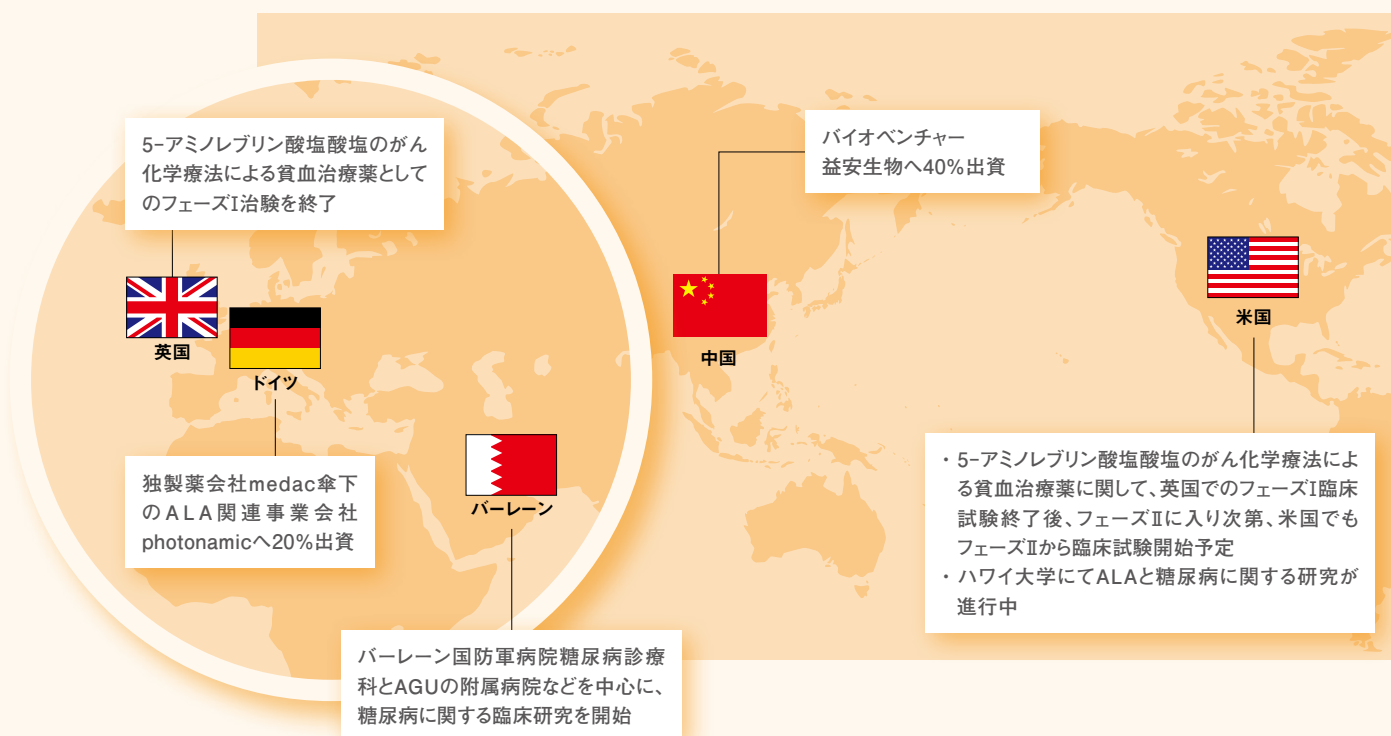
ための合弁会社を設立準備中であり、UAEでも販売体制を構築中です。

今後は中東に加えて、アジアでの展開も加速させていきます。フィリピンでは現地当局から「NatuALA ONE」の製品登録証明書を取得、現地の医師ネットワークを有する企業と提携

して、年内には販売を開始する予定です。

中国ではALA製品販売のための合弁会社の設立準備を進めているほか、韓国、マレーシア、インド、インドネシアの各国ではALA事業展開のため現地大手製薬会社と協議を進めています。

医薬品分野の各国でのプロジェクト



VOICE



浅間 悠介

SBIファーマ バーレーン駐在員事務所

S BIファーマのバーレーン駐在員事務所は、中東地域でのALA関連商品の販売、大学と連携しての臨床試験の実施、そして将来的なALA製造工場の設立に向けた活動を行うため昨年10月に設立されました。

日本とは文化、ライフスタイルがまったく異なるイスラム圏の国で、通常の生活を送るだけでも困難を伴いますが、これまで異なる経験を積んできた現地人、日本人が「ALAを中東地域に普及させる」という共通の想いを持って活動する事務所は刺激に溢れており、私個人としても微力ながらも貢献できればと考えています。